

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：10103

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00594

研究課題名(和文) 文献資料とフィールドワークに基づくアイスランド語アクセント史の基礎研究

研究課題名(英文) The Groundwork for Icelandic Diachronic Accentology from Philological and Field Linguistic Viewpoints

研究代表者

三村 竜之(Mimura, Tatsuyuki)

室蘭工業大学・大学院工学研究科・准教授

研究者番号：00647662

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 600,000円

研究成果の概要(和文)：母語話者とのフィールドワークと図書館等での文献調査を通じて、本研究の課題であるアイスランド語のアクセント史に関して次の三つの事柄を改名した：i) 現代語のアクセントは語の構造を問わず、基本的には第一音節(左端の音節)に現れるが、比較的新しい外来語や話者にとって馴染みの無い外来語の場合は例外的に第一音節以外にアクセントが置かれる；ii) 中世期のアクセント体系も現代語と同じ型体系；iii) 単純なアクセント体系を保持することでアクセント規則の単純化も維持され、言語使用の際の労力を最小限に抑えることが可能となるため、アクセント体系の歴史的な変化が起こらなかったと推定される。

研究成果の学術的意義や社会的意義

声調やピッチアクセントに比べてストレスアクセントの実態はいまだ不明な点が多い。英語など一部の主要言語のストレスアクセントを対象とした理論研究に偏向していることが原因である。未だ研究途上のアイスランド語のストレスアクセントを記述言語学の観点から扱った本研究課題の成果は、ストレスアクセントの変化の種類と方向性(体系維持、消失、体系変化)など言語の史的研究全般に関する重要な知見を与え、学術的に意義がある。また本研究の基礎調査を通じて明らかとなった現代アイスランド語のアクセントに関する情報は、アイスランド語のみならず広くストレスアクセント言語の発音教育に活かすことができ社会的にも有意義である。

研究成果の概要(英文)：Based on data both elicited from field researches and collected from written materials, the following three findings were made concerning the historical development of Icelandic accent: i) the primary stress as a rule falls on the left-most syllable of a word; any information on parts of speech, origins, the number of syllables, word structures is of no relevance; ii) Old Icelandic also had a single-pattern stress accent system; iii) Modern Icelandic inherited and retains the stress accent system of Old Icelandic, and the motive for the retainment is to produce a more unmarked and economical accent system.

研究分野：言語学

キーワード：アイスランド語 アクセント 通時音韻論 言語変化

1. 研究開始当初の背景

アイスランドは、主にノルウェー南西部の人々を中心に、700～1050年頃に入植したとされる。この時期にはノルウェー語には高低アクセントが発生していたとする研究もあり、アイスランド語もかつては高低アクセントを有していたのではないかという仮説が立てられる。文献資料から高低アクセントの存在の証明を試みる研究も僅かにあるが（例：Ottósson 1986）文献資料には限界があり、予てから研究代表者は、現代語の資料やノルウェー語諸方言の資料との比較研究が必要であると痛切に感じていた。

また、これまで研究代表者はアイスランド語の強弱アクセントのフィールドワークを度々行っており、それまでに採取したデンマーク語やノルウェー語諸方言の資料との比較から、歴史的なアクセント変化が生じたという仮説を立てた。しかし変化の契機や過程を証明する上で必要な外来語など多音節語の資料が不足しており、さらなる調査の必要性を感じていた。

以上の経緯から、文献資料の精査と文献資料を補完する現代語のフィールドワークという本研究課題の着想に至った。

2. 研究の目的

文献資料とフィールドワークによる現代語の資料の両面からアイスランド語のアクセント史の解明を目指すことが本研究の目標であるが、同時に、広く言語全般のアクセント史研究へ寄与することも本研究の目的である。強弱アクセントの史の変遷に関する研究は歴史言語学の中でも発展途上の領域であり、本研究の成果はアクセントの史的研究において方法論的にも理論的にも新たな知見を与えるものである。

3. 研究の方法

アイスランド語は中世以降の文献が豊富に現存するにもかかわらず、アクセント史の研究が発展途上である。現代語の音声資料を用いた研究手法が確立されていないことに起因する。本研究課題では、中世から近代にかけて出版された文献資料を補完すべく、フィールドワークを通じて現代アイスランド語の音声資料を採取・分析し、さらに歴史的に関連の強いデンマーク語やノルウェー語諸方言の資料との比較研究を行った。

- a. **フィールドワークに基づく研究手法の導入：** アイスランド語の音韻史の研究はほぼ全て文献資料に依存しているが、質と量の両面で十分とは言えない。文献資料を補完すべく、フィールドワークを通じて現代語の音声資料を採取することは必須であるにもかかわらず、フィールドワークに基づいたアイスランド語のアクセント史研究は本研究課題以前ではこれまで全くなされていない。
- b. **比較言語学的視点の導入：** アイスランド語の古い姿を遡るためには、同系統の諸言語・諸方言の資料とアイスランド語の資料との間の対応関係を精査する必要があるが、アクセント史研究にはこのような比較言語学的の視点が欠けていた。本研究課題では、歴史的に関連の強いデンマーク語やノルウェー語南西部方言の資料との対応関係に基づきアクセント史を探求した。

4. 研究成果

4.1 論文（全て単著）

- a. 三村竜之（2023）. 「東工大多言語音声コーパス アイスランド語」〈その2〉 方言的特徴を探る. 『北海道言語文化研究』21, pp. 35-58.
- b. 三村竜之（2023）. 「ストレスアクセント記述研究管見：フィールドワーカーの視点から」.

『室蘭工業大学紀要』72, pp. 18-35.

- c. 三村竜之 (近刊). 「現代アイスランド語における二重母音の音韻解釈: 特に母音量/持続時間の解釈に焦点を当てて」. 『室蘭工業大学紀要』73.

4.2 学会発表等 (全て単独発表)

- a. 三村竜之 (2023). 「現代アイスランド語の二重母音にまつわる諸問題」. 北海道言語研究会第24回研究例会.
- b. 三村竜之 (2023). 「アイスランド語アクセント調査報告」. 北海道言語研究会第23回研究例会.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 三村竜之	4. 巻 20
2. 論文標題 ノルウェー語南東部方言のアクセントの再検討: アクセント論の視点から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 北海道言語文化研究	6. 最初と最後の頁 61-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 三村竜之	4. 巻 24
2. 論文標題 アイスランド語アクセント史の構築に向けて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 音韻研究	6. 最初と最後の頁 87-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 三村竜之	4. 巻 19
2. 論文標題 アイスランド語ストレスアクセントの史的研究: 文献史料とフィールドワークに基づく試論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北海道言語文化研究	6. 最初と最後の頁 77-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 三村竜之	4. 巻 21
2. 論文標題 「東工大多言語音声コーパス アイスランド語」<その2> 方言的特徴を探る	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 北海道言語文化研究	6. 最初と最後の頁 35-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三村竜之	4. 巻 72
2. 論文標題 ストレスアクセント記述研究管見: フィールドワーカーの視点から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 室蘭工業大学紀要	6. 最初と最後の頁 18-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三村竜之	4. 巻 73
2. 論文標題 現代アイスランド語における二重母音の音韻解釈: 特に母音量/持続時間の解釈に焦点を当てて	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 室蘭工業大学紀要 (近刊, 2024)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計7件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 三村竜之
2. 発表標題 デンマーク語støed研究の諸問題: 通時論と教示論の両側面から最善の音韻解釈を探る
3. 学会等名 国立国語研究所プロジェクト共同研究第7回オンライン研究発表会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三村竜之
2. 発表標題 アクセント研究諸概念管見
3. 学会等名 北海道言語研究会第22回研究例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三村竜之
2. 発表標題 アイランド語から見た一型ストレスアクセントの研究
3. 学会等名 北海道言語研究会第20回研究例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三村竜之
2. 発表標題 アイランド語アクセント史の構築に向けて
3. 学会等名 日本音韻論学会音韻論フォーラム2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三村竜之
2. 発表標題 アイランド語アクセント史研究の諸問題
3. 学会等名 北海道言語研究会第19回研究例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三村竜之
2. 発表標題 現代アイランド語の二重母音にまつわる諸問題
3. 学会等名 北海道言語研究会第24回研究例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 三村 竜之
2. 発表標題 アイスランド語アクセント調査報告
3. 学会等名 北海道言語研究会第23回研究例会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関